

今よりもっと自分を好きになる場所

静岡市立清水三保第二小学校 校長 糠谷 真規

「今よりもっと自分を好きになる子」

これは、本校の通級指導教室（まつかぜ教室）の教育目標です。本校に校長として赴任し、この目標を初めて目にした時の感動は、今も私の心の中に残っています。言葉や発達に課題があるために、通常学級での学習や人間関係づくりにつまずきがちな子どもたちが、まつかぜ教室での学びを通して、つまずきを小さくするための具体的な方法を身につけ、自分への自信を取り戻し、自分をもっと好きになっていく…掲げた目標の素晴らしさだけではなく、この目標を具現化しようと、熱心に研修に励み、一人一人の子どもの特性に応じた適切な支援方法を探り、担任や保護者と連携しながら指導にあたっている2名の担当者の努力には頭が下がります。「できないことをできるようにする」「苦手なことを克服させる」のではなく、「その子がもっている力やよさを十分に発揮できる」ための具体的な支援を目指す指導のあり方には、通常学級や特別支援学級を担当する職員にも学ぶところが多くあります。

本校は、昭和45年に開校し、今年で52年目を迎えます。開校から10年後の昭和55年に言語指導教室が開設され、平成19年に言語・発達の通級指導を開始しました。長らく1教室で運営されてきましたが、令和2年度に発達通級指導教室が新設され、現在は、言語と発達の2教室に31名（令和3年8月1日時点）の子どもたちが通ってきています。通級指導教室に加え、特別支援学級、放課後日本語指導教室も設置され、全校児童107名の小規模校でありながら、個に応じた支援体制が充実した環境にあります。

また、「三保の松原」で有名な三保半島の入り口に位置する本校の敷地内には、松林があります。運動場に隣接する松林は、子どもたちにとって大切な場所となっています。多少の雨が降っても、松の梢が屋根となり、子どもたちは濡れずに遊ぶことができます。太陽が照りつける暑い日も、松の梢に吹く風は涼しく、子どもたちに木陰を提供してくれます。海から強い風が吹いてきても、松の木はどっしりと校舎を守ってくれます。「まつかぜ教室」の名前は、この松林に由来しています。



本校の子どもたちにとって、松林が大切な場所であるのと同じように、通ってくる子どもたちにとって、まつかぜ教室が「今よりもっと自分を好きになる」かけがえのない場所であり続けるために、尽力していきたいと思えます。

【教室紹介】

言語通級指導教室（まつかぜ1）に加え、令和2年度に発達通級指導教室（まつかぜ2）が新設されました。まつかぜ1, 2ともに教室は校舎4階にあります。同じ階には音楽室もあるため、たくさんの児童が通級指導教室の前を通ります。まつかぜ教室に通う児童が「ここ（まつかぜ教室）にはね、〇〇があって…」と、クラスの友達を連れてきて、教室の中を紹介することもよくあります。いつでも誰でも気軽に声をかけたり立ち寄りたりできるような教室経営を目指しています。



カーテンで囲われた集中できる空間で学習しています。



保護者や在籍校の先生方との話し合いに使っているサロン。

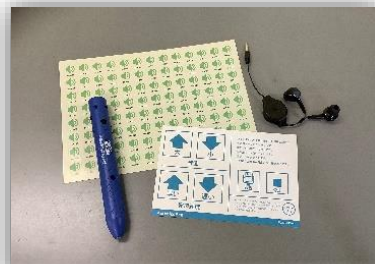


教室の入り口。教室の前を通る子どもたちがよく声をかけてくれます。

【教材紹介】



音環境に配慮し、教室内の机椅子にはテニスボールをつけています。



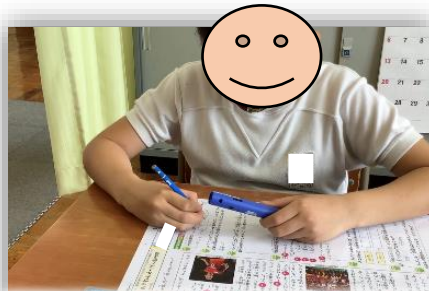
アクトボイスペン。ペンに録音し、シートをタッチすると再生されます。



支援のヒントとなる書籍類や子どものやる気を高める学習カード類。



学習の前に、バランスボールやトランポリン、縄跳びなどの運動で集中力を高めています。



ボイスペンを使ってテストや学習プリントに取り組んでいます。在籍学級でもボイスペンによる支援を行ってもらっています。



【エピソード紹介】

退級する児童が、三保二小の校長先生から「がんばり賞」を手渡されている場面です。通級指導教室担当だけでなく、三保二小の先生たち全員が、通級指導教室に通う児童の強力なサポーターです。校長先生には、指導の様子を参観してもらい、児童のよい表れを価値づけてもらっています。

